

	6. 地域住民の多様な意見や専門的な知見を踏まえた総合的な議論を、議会で具体的にどのように行うか、おきかせください。	7. 条例案の審議の日程および方法(例:意見陳述のあり方、委員会審議、請求代表者の質疑応答なし、傍聴など)は、妥当であったと考えますか。	8. 米子市民自治基本条例 第29条についてどのように理解され、このたびの条例案の賛否の判断となりましたか。	9. 現在、島根原発2号機は安全対策の工事が行われており(来年2月までかかるといわれています)、設計及び工事計画認可等は済んでいず、新規制基準適合性審査は途中です。市長は3月18日に安全協定に基づく「意見」(実質は、稼働に了解するかどうかの判断)を表明するとしています。この時期に米子市としての「意見」を決めることを、時期尚早だと思いますか、思いませんか。また、そのように考える理由は何ですか。	10. 市民にメッセージがあればおきかせください。
岡村英治 日本共産党	住民と議員と一緒に多面的な専門家の意見も交えて議論したい。	せめて請求代表者の質疑を通じて、理解が深められるようにすべきだと思います	島根原発の稼働は、市民にとって重要な事項だと考えます。	時期尚早だと思う。「安全協定の改定」についても、なぜこの改定で「了」としたのか、市民に十分説明していない。	この公開質問の回答状況も踏まえて、6月の市議選で投票に臨んでいただきたい。
奥岩浩基 蒼生会					
尾沢三夫 蒼生会					
門脇一男 蒼生会					
国頭靖 よなご・未来	住民投票以外に把握するのは難しい。	妥当でない。	選挙だけではなく、市民に自治に参画してもらう機会がなくなったことは残念。	時期尚早だと思う。	市民に期待される開かれた議会でありたい。今回は残念ではない。
田村謙介 蒼生会					
土光均 よなご・未来	多様な立場の専門家を議会に参考人として呼び意見を聞く。また、市民の様々な疑問を代弁する形で専門家に質問し、それを市民に伝える。市民自身の意見・思いも公聴会等で、聞く。	意見陳述のあり方問題あり。時間制限をし、また陳述を議員に背を向けて行わせるなど、地方自治法に沿って、署名を添えて住民投票条例案を制定している請求代表人に対して、敬意が感じられないような対応をした。質疑なしとすることはオカシイ。相手のいつていること・思いを理解しようとするならば、当然確認したいこと、わからないことが出てくるはず。それを、一律「質疑をしない」とすることは、むしろ、ちゃんと聞く気がなく、質問もする気がない議員の体面を保つためではないかと疑う。コロナ禍ということで、傍聴者を20名と制限していることに関して、何らかの代替措置が必要であった。本会議はネット中継がされるが、委員会はネット中継はされない、録画配信もない。議事録は公開されるが2~3か月たってから。委員会でのどのような議論がされるのか・されたのかを知るためには平日昼間に傍聴に行くしかない。そして人数は20名に限られている。13,364名の署名を添えて請求された住民投票条例案の議会での議論をネット中継等で、広く市民に公開すべき。市民の見えないところで議論すべきではない。	市民自治基本条例の解説書では、以下のように述べられている。最初に第1項では、市民投票を、間接民主制の下、市長と議会が、より良い判断をするための材料を得るための方法と位置づけ、市が、直接的に市民の意思を確認し、市民が意思表明できる市民参加の方法として、「市政の特に重要な事項について、事案ごとにその都度条例で定めるところにより、市民投票を実施することができる」としています。議会は、重要な事項について、真摯に市民の意見を聞きそれを反映させるべき。また、市民が市政の課題について住民投票を求める場合、往々にして議会の意見と市民の意見が乖離している場合が多い。そういう状況で、住民投票を実施するかどうかを議会の判断に委ねる(過半数の賛成)というのは、ある意味で矛盾している。住民投票の実施は、議会の判断に委ねるのではなく、市民の一定数の署名があれば必ず実施する(常設型住民投票制度)が必要であると考えます。	時期尚早だと思う。様々な視点から、十分議論すべき。この時期に「決める」ことは、市民の間での議論にフタをするかのようなもの。市民の意見を封じ、自分たち(市長、市長の意見を追認する議員達)の思うように事を進めるやり方である。	島根原発2号機再稼働に関して、米子市としては同意したが、2号機はいま安全対策の工事中で、それが完了するのが来年2月。まだまだ、十分議論する期間はある。市長・議会としては、結論を出したことになっているが、あきらめずに、市民とともにこれからも原発に関して立場に関わりなく多様な議論をしていきたい、多様な情報に接し市民にも提供していきたい。何もしなければ、2号機は、ブルサーマル発電を実施する。3号機が、やがては稼働する。(今後60年間稼働するかもしれない)。そんな未来はイヤだ。あきらめず、脱原発の「未来図」を市民と議論しながら描いていく。